

公明 こうち

市議会ニュース

発行所／高知市議会公明党
住所／〒780-0870
高知市本町4丁目1番24号
TEL:088-823-9403
FAX:088-871-2485

2018年(平成30年)2月1日 第40号

高知市議会  公明党

寺内憲資議員は、下水道使用料の値上げに關し、先進市は企業努力・自助努力を行い、足らない分だけの最小の負担をお願いしていることから、次のとおり質問を行いました。

まず最初に、高知市の下水道事業の民間委託割合を質問し、中核市（高知市と同規模の自治体）平均8.7%を大きく下回る5.8%であり、効率的な維持管理が行われていないことが判明しました。

次に、松山市は下水道経営を審議する下水道事業経営審議会を常設の組織とし、毎年1回以上開催し、前年度の下水道事業の経営状況について審議を行い、結果を市民に公表する透明性のある下水道事業経営を行っていることから、高知市も同様に下水道事業経営審議会を常設の組織として設置すべきであると質問しましたが、前向きな答弁はありませんでした。

次に、高松市が下水道収入の確保につながる水洗化率の向上に、職員270名全員が、土日を返上し、未接続世帯の個別訪問により、千世帯を超える接続をさせていたことから、高知市も職員自らが戸別訪問を行うべきであると求めましたが、民間業者に委託して行う旨の後ろ向き答弁でした。

この様に、上下水道局としての企業努力姿勢が見えない中、下水道使用料の値上げ率16%を認めるわけにはいかず、収支が黒字であり、下水道使用料で回収すべき経費を全て賄える値上げ率を試算したところ、値上げ率10%が算出されしたことから、公明党としてこれが適正な値上げ率と判断し、対案として提案しました。

大久保尊司議員は、本市における生活困窮者自立支援について質問を行いました。

高知市では、平成25年10月に、国のモデル事例として自立相談支援を開始し、翌11月には、「高知市生活支援相談センター」を開設しました。この「高知市生活支援相談センター」は、高知市と高知市社会福祉協議会、ハローワークや若者サポートステーションで構成しており、「断らない、あきらめない、投げ出さない」の三原則を基本方針として掲げ、社会的に、人とのつながりが希薄になつていていたり、引きこもりなどで仕事ができず、収入が無いなどの、生活困窮に陥っている市民を対象に支援事業をおこなっています。

その取り組みのこれまでの総括と、今後の重点課題について質問しました。

岡崎市長からは、「すべての相談を断らない」と答弁がありました。このことにより、潜在化していた生活困窮者の実像が明らかになつてきたことは成果と考えている。今後もより一層、各支援事業の取り組みを推進し、関係各部門との連携体制の強化を図つて参ります」との答弁がありました。

◆遠距離通学の通学費の無償化

昨年12月に「29年度から全額実施に向け検討する」と答弁があつたにもかかわらず、先送りされている現状を厳しく指摘。本来ならばスクールタクシーの無償化と公共交通機関の全額助成によつて、通学費の負担はないはずであり、市長・教育長に明年度からの実施を再度、要請しました。前向きの答弁を得ましたが、開会後も進捗管理を行い、実現を目指します。

また、久重地区から愛宕中学校への通学費は年間15万円にもなる事例をあげ、全額助成とあわせて、立替払いの解消を提案しました。

◆久重保育園の給食の実施

昨年引続き進捗を確認し「平成30年度に予算を確保し、耐震化と同時に調理が可能な改修を行う」との答弁がありました。



寺内 憲資 議員



大久保尊司 議員



西森 美和 議員

第462回

高知市議会定例会

公明党市議団

生活者目線で深まる論戦!!

◆特認校への「スクールタクシー」の導入

複式学級となつてゐる特認校へのスクールタクシー（デマンドタクシーを活用）の導入を求め、一昨年12月議会に以下の提案をしました。
①登下校時にスクールタクシーを運行する

②通学助成の対象とする

新春挨拶

高知市議会公明党は、1月7日(日)に県民体育館前において高知市成人式の祝賀街頭演説を行い、その後、初市でにぎわう日曜市で恒例の新春街頭演説を行い、本年のスタートを切りました。

私たち公明党は、「大衆とともに」

との原点を胸に、議員のネットワークとチーム力で国や県との連係をさらに強めながら、皆様の暮らしを守るために、「公明党らしさ」を發揮してまいります。

地域に根を張り身近な議員として頑張つてまいりますので、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成30年度 予算要望書 岡崎誠也市長に提出

昨年11月29日に新年度の予算編成に向けた、「平成30年度予算要望書」を岡崎市長に提出しました。

平成30年度高知市予算編成にあたっては、市民の皆様の生命と財産を守るため、南海トラフ地震対策と人口減少問題の克服に向けた地方創生の取り組み強化を2本柱に予算編成を進めるとしています。また、岡崎市政が目指す「にぎわいと暮らし安心のまちづくり」施策の仕上げ段階となり、さらに県内33市町村や県と連携協約を締結して、高知モデル「れんけいこうち広域都市圏」を形成するリーダーとして、県域の発展を目指すスピード感のある対応が望まれます。

公明党では、重要項目として特に民間資金を活用した学校の空調設備導入推進などを強調するとともに、重要施策150項目の内容を提案しました。



新図書館「オーテピア」 の開館に期待

2018年
7月24日
開館予定



平成26年7月から建設工事の始まった、新図書館等複合施設の内覧会が開催されました。今後は、本年1月より140万冊の書籍などの搬入を行い、中四国地方最大級の図書館面積を持つ施設が、本年7月にはオープンする予定です。



- 1階 オーテピア高知声と点字の図書館
- 2・3階 オーテピア（図書館）
- 4階 ホール・会議室等
- 5階 高知みらい科学館・プラネタリウム

太陽

本年は、戌年。「新しい事を生み出す」年。「次のステップへ準備する」年。「何かをガラリと変えるための仕込み」の年などと言われるそうです。そして本年は明治維新から百五十年の佳節を迎える年でもあります。古いしがらみに縛られず、新しい価値を生み出す時なのかもしれません。

昨今、慶應維新として世界で類を見ない平和的革命であったと注目される大政奉還から、明治へと、百五十年前の本年が大きな歴史の転換点であったことは、間違いないありません。

封建社会から、議会制民主主義の時代になつたことは言え、民衆が主役の時代を摸索し続けてきた年月とも言える気がします。「衆望を結集して形にする」その挑戦がいかに大変な労作業であるかを感じる毎日です。

今年は、どんな未来のための仕込みを行つか。「殻に閉じこもつているようだ」と、先人に笑われないように「シンク・グローバリー」アクト・ローカリィーで自分の中の固定観念を刷新していくたいと思います。(白桃)